

<司令官ケネス・メイナー大佐の2021年1月10日のビデオメッセージ（要約）>

今年の救世軍の標語は「主によって練られ、備えよう」です。神様は私たちのうちに生ける主イエス・キリストの似姿を形づくることによって、人々が私たちを通してキリストをはっきり見ることができるように願っておられます。この新年は祭壇をテーマに聖書を学んで行きたいと思います。聖書の登場人物の多くは、祭壇を築くことによって、神様と共に歩み始めました。士師記第6章を見てみましょう。当時、イスラエルの民は飢饉と敵の攻撃によって脅かされていました。コロナに脅かされている今の私たちに似ているかもしれません。苦しむ民を救うために、神の御使いがギデオンに遣わされました。御使いの言葉を受け取ったギデオンが最初にしたのは祭壇を築くことでした。「ギデオンはそこに主のための祭壇を築き、『平和の主』と名付けた」と士師記6:24とあります。興味深いことに、ギデオンは敵に囲まれていたにもかかわらず、祭壇を築いて、それに「平和の主」と名を付けたのです。ウイルスに脅かされている私たちも、今こそ主の前にへりくだり、祭壇を築き、主を見上げ、主が何をさせようとしておられるか、御心を祈り求める必要があるでしょう。ギデオンは神が唯一の御方であることを認めて、祭壇を築きました。私たちクリスチャンは自分の心を祭壇として神の前にひざまずくことができます。その時、聖霊があなたの心を満たし、火をともしてください。私が12歳のとき従弟たちと一緒にウェストバージニアの山岳地帯にキャンプに行きました。日中は暑く、日が落ちると冷え込みましたが、上着も寝袋も持っていなかったため、暖を取るために従弟がガソリンをたきぎにまいて火をつけました。その瞬間、爆発して眉毛が焦げてしまいました。燃え盛る火は3分後に消えて、もっと寒くなってしまいました。時々私たちも神様のために心が燃やされる瞬間がありますが、しばらくすると火が消えて冷えてしまいます。しかし、私たちたちは日々、自分の心を祭壇とすることによって、神様に近づき、聖霊の火をともしていただくことができます。ギデオンは神の祭壇にひざまずき、神の平和を経験していたので、敵に立ち向かい、戦うことができました。ぜひ士師記6章と7章を読んでみてください。神様はギデオンを用いてイスラエルの民を解放してくださいました。神様は、あなたの人生を用いて、家族、地域、国の人々を解放することがおできになります。そのすべては、あなたと復活の主イエス・キリストとの心のつながりから始まります。イエスは「平和の主」であるからです。